

甲山フロック交流会



題字
矢作南小学校 五年 杉浦文哉

がいほつ

岡崎市現職教育委員会特殊教育部会 平成16年3月6日発行

50号



契約としての個別指導計画

矢作北小学校長

兼平 義文

特殊学級担任の有志が集まり、四年前から自主研究として障害児の個別指導計画を立案し試行しています。会場校でもあり、少しの間参加しました。そこで感じたことは、障害児教育のみならず、学校教育全般に「個別指導計画」の考え方が遠からず指摘される時代が来るのではないか、ということだと思います。その計画票には、保護者、担任、校長の捺印欄があります。保護者と担任が面談し、「いつまでに、何ができるように、どんな指導をするか」の合意を票にし、校長が認める形をとっています。一種の「社会契約」と言えましょう。期限が来ると保護者とともに結果を評価し、達成の満足度を確認し合い、再度三者が捺印します。

ここで問題になるのは、双方ともに不満足と評価した時、どう対応するかです。保護者は親心としてどうしても高めに目標を設定しがちですが、保護者や担任が子供の現実に丹念に向き合っていれば、高すぎる目標は避けられます。ここで一番問題なのは、互いに納得した目標を設定したのですから、担任の指導法に不十分な点がなかったか、という懸念です。ただ目標が高すぎたという反省だけでは、次期も似たような結果を繰り返すことになりかねません。契約ととらえるのですから、「すぐ忘れるので」「意欲がないので」と理由を子供にのみ向けることはできません。ほんのささやかな進歩でも、目標に到達したという満足が双方にあれば、子供も達成感を持てるのです。「目標と達成」こそ、学校教育の営みのすべてであり、基本をなすものではないでしょうか。

子どもと親の集いフロック交流会
六ツ美・六ツ美北ブロック 十二月五日

児童・生徒・担任・保護者合わせて九十名ほどが六ツ美北部小学校に集い、各学校の出し物と親子競技を中心に行いました。お招きした岡崎ライオンズクラブの方から賞品の贈呈があり、子供たちは大喜びでした。

各学校の出し物は、パネルシアター、歌や楽器の演奏、劇、和太鼓・ハンドベルの演奏など多種多様でした。どの子供たちも、楽しそうに意欲的に参加して、日ごろの学習の成果が発表できました。

競技は、四チームに分かれ、生活単元学習や作業学習で作ったドラえもんのパズルをかごに入れて親子で運び、最後にみんなでパズルを完成するというものでした。

多くの保護者の方の参加があり、親子でふれあいながら競技する場面が見られ、心に残る会になりました。



中学生の卒業後の進路

豊田高等養護学校への希望者が年々増加し、倍率・規準が高くなる傾向が鮮明になっていきます。

また春日台職業訓練校の訓練費の公費負担打ち切りが検討され始めたり、就職に向けての実習先選定も困難だったりと厳しい状況が増してきています。

希望進路先	就職など		春日台職業訓練校	専修学校	定時制高校	全日制高校	豊田高等養護学校	安城養護学校	附属養護学校	合計数
	男	女								
	3	1	1	0	1	0	1	4	7	24
	1	1	1	0	1	0	1	4	0	8
計	4	2	2	4	1	3	6	11	1	32

平成16年2月13日現在

(※通常学級二名を含む)



通知表の手引き改訂について

連尺小 田島広嗣

特殊教育部では、市内の小・中特殊学級対象の通知表を作成しています。昨年度は、総合的な学習の時間の教育課程の位置付けなどから、特殊学級担任にアンケートを取り、通知表の改訂をしました。また、それに合わせて通知表記載のための手引きも改訂する必要が出てきました。

そこで昨年度は、既成の手引きを基に試案を作成しました。さらに今年度は、通知表を記載する担任の参考になるように、十八名の委員で、手引きに記載する具体的な例を挙げながら、検討を重ねました。

例えば、所見欄の記載では、「ひらがなを読むことができました」とするより、「ひらがなカードを使って、カード取りをしたり、言葉集めをしたりして、ひらがなの清音がほとんど読めるようになりました」とすれば、より具体的な学習状況を保護者に伝えることができます。また、清音から濁音や促音など次の課題を示すことで細かいステップでの称賛を重ねることにつながります。

個々の児童生徒の教育支援と、その記録を具体的に伝える参考資料となれば幸いです。

愛知・特別支援フォーラム2004 WINTERに参加して

連尺小 田島広嗣

一月十一日に愛知教育大学障害児教育方法学研究会の主催で開催されました。はじめに、「特別支援教育の動向」として愛教大教授の都築繁幸氏から基調報告がされました。続いて、聾学校・知的障害養護学校・小学校的立場から、三つの研究発表がありました。小学校の発表では、美合小学校の安藤仁史教諭が「通常学校におけるサポートミーティングの試み」を発表されました。講演では、岡崎聾学校長の市橋詮司氏、安城養護学校長の市川敦彦氏から、特別支援教育の動向をそれぞれの学校の実情やご自身の教育談を交えてご紹介していただきました。

今回は、聾学校や養護学校に関する情報が多く提供されました。開催日は、三連休の中日で寒い日でしたが、施策・市町村や自校の弾力的な運用・人材や費用の側面・教員の役割・保護者のニーズなどさまざまなキーワードを思い浮かべながら、関係者約六十名が熱心に耳を傾けました。次回は、十六年度春期、通常学校における特別支援教育を中心内容とするフォーラムの予定です。

職場体験学習

八月六日・七日に学区のケイズパークというスーパーマーケットと福祉の村の「のぞみの家」で職場体験学習を行いました。美川中では毎年夏休みを利用して二日間の実習を行っています。卒業後の進路に対する意識を高めることに役立っています。また自作のカレンダーを贈呈してお世話になった職場との交流も続けています。



ぼくは、職場体験学習でケイズパークに行きました。野菜をふくろに入れてました。きゅうり・ピーマン・なすをやりました。いっぱいあったのでたいへんでした。みんなはやさしいので、すぐなかよくなりました。ぼくがやっているといろいろしゃべってくれました。すぐくたのしかつたです。さいごに職場の人が「ごほうびだよ」と言って、ふくらにリンゴをふたつ入れてくれました。正しい職場体験学習ができました。正

じてんしゃで、のぞみの家に行きました。朝は、たいそうをしました。そのあとで草をとって、めちやくちやあ

つかったので、あせをいっぱいかきました。おわたたら、しごとでペンをはこにいれました。むずかしかったことは、むきをそろえたり、かぞえたりすることです。つかれてもいっしょうけんめいやりました。

つぎの日、昼からは、ぬのや毛糸をやりました。休けいのにときに、大学生と遊びました。お兄さんとお姉さんがリコーダーをふいていました。すごかったです。あつというまの二日間は、いろいろしごとがあつて勉強になりました。

ゆみこ

職場体験に行きました。中に入ったら「すずしく」で外に出たら「あづい」です。しごととは、ペンをはこの中に入れたのと、毛糸でクッションをつくりました。細かくてたいへんでした。ぼくはちよつと手がつかれました。

しよくどうでお



弁当をみんなで食べました。はたらいたあとのお弁当は、とってもおいしかったです。ぼくは、職場体験にいつて、ちよつとむずかしかったけど、みんなとなかよくなれてとつてもうれしかったです。

竜也

研究会より

生活科・総合的な学習の時間大会

平成十五年十一月二十日(木)

胎動の予感

岡崎小学校 狩野 清美

「みんなで作って仲良く遊ぼう」というテーマで、本学級は全国大会に臨みました。そして、紙粘土の活動を中心に、「楽しく人とかわることができ」ることを目標にしました。

A子は、教室ではみんなに声をかけ、元氣一杯、活動できます。しかし、交流学級の友達と一緒に作品づくりをする、緊張して声が出なくなり、また、活動もぎこちなくなります。

体験学習で南公園に行き、A子は、B子やC男を誘って何度も遊具に乗りました。この体験をもとに「みなみ公園を作ろう」と、紙粘土で遊具を作り始めました。自分で撮った写真を見ながら、外部講師の支援を受け、細かいところまで丁寧に作りました。これを機に、作品づくりに没頭し始めました。作品が出来上がると「ねえねえ、これ見て」と、自己主張するようになってきました。それとともに、交流学級の子供たちとの作品づくりには、緊張するものの、自分の気持ちを態度で表すことができるようになりました。今では交流学級の子供たちが作品づくりに来るころ、廊下に出て待っているA子の姿が見られるようになってきました。

共に生きる力を育てる交流のあり方

三島小学校

本校では、三年生をわかば学級との交流を深める学年として位置付け、出会いの場としてのなかよし会やふれあいを深める場としてのゆう遊タイムを設定しています。

交流を通して三年生の子供たちは、お互いのよさに気付き、個性を認め合うことができるようになりました。また相手の立場や気持ちを考えたり思いやりの心を持つたりして、人とかわわかっていくこともできるようになります。わかば学級の子供たちは、一緒に活動する楽しさを味わうとともに、自分の得意なことを生かすことができるようになることをめざします。

当日一組で、A男はカービーチーム、B子はゆうれいチームの活動の振り返りの授業で感想を発表しました。二組は、ゆう遊タイムの実践の場で、C男は音楽チームで歌やクイズを行ったり他のチームのゲームに参加したりしました。三組は、実践前のお試しの時間で、D男は他のチームの韓国語カルタを楽しみ、話し合いにも参加しました。三年生以上の子供たちは、わかば学級との交流を行うことで、わかば学級の子供たちに声をかけてくれるようになっています。放課と一緒に遊んでいる姿を見ていると、この交流が有意義であると実感します。

岡山県立六小

岡崎市立六小

鳥井 裕之

特殊教育は、私の教員生活のほとんどを占めています。多くの生徒や先生方との出会いや特殊教育部の仕事からいろいろなことを学びました。

印象的な子供との出会いがありました。中学校で担任したA男君。テレビの「まんが日本昔話を暗記していて、放課などにナレーターの抑揚そっくりに語り出します。返事やあいさつが大きな声でできる生徒でした。

卒業を控え、養護学校への進学が就職が悩んでいたところ、ある企業が、実習を受けてくれることになりました。一台の機械を任せられ製品を作るのですが、作業量にむらが出てしまいました。就職は難しいかと不安を持ちましたが、実習最終日に「採用します」と言われ、胸をなでおろしたことを思い出します。事業主の採用理由は『この子は朝、気持ちのいいあいさつをしてくれる、仕事を教えてあげるとしっか返事をしてくれる、職場がとても明るくなった』といったしよに現場で働いているパート

さんたちから言われたんだよ」とのことでした。

A男君との出会いから、進路指導にとつて、大切なものの一つを教えてもらうことができました。

特殊教育部の仕事では、「子どもと親の集い運動会」との出会いです。初めて運動会を開催することになったとき企画メンバーとして参加させてもらいました。担任している子供たちが生き生きと活動できるようにするには、どんな種目がいいのか、何度も話し合いました。子供の実態を出し合い、それぞれの先生方の考えをもとにいろいろな意見が交わされました。個を大切に、個を生かすとはどういうことかを垣間見ました。この経験は、それ以降の普段の指導に生きたのではないかと感じています。



第1回「子どもと親の集い運動会」(昭和58年)

二組二つか歌えない歌

竜南中 小野田 竜真

よろしくおねがいします

男川小 原田 俊弘

ぼくは、らいねん中学生になります。あたらしいじてんしやで中学校へいきます。お兄ちゃんといっしょにいきま

す。あたらしいリュックをかきます。がくせいふくもかいます。べんきょうもいっしょけんめいやります。しゅくだいもやります。

六年間を振り返って

原田 ひろみ

小学校の一年生として、入学したあの日を、今しみじみ思い出しています。まわりのみなさんに、支えられて過ごした六年間、本当にお世話になりました。心より感謝しております。少しずつ成長して、心も身体も大きくなりました。小学校での思い出を大切に、注

二組二つか歌えない歌

竜南中 小野田 竜真

僕たち三年二組は合唱コンクールで「親しらず子しらず」を歌いました。本番の日になり、みんなで円じんを組みました。

そして、ステージに上がり歌いました。歌い終わり審査の結果を待ちました。「銀賞、三年二組」と発表された時は思わず叫んでしまいました。

この銀賞こそ二組三十九人の心が一つになった証だと思えました。

なかま

小野田 はる美

交流学級の二組は、行事の際の盛り上がりがいづもすばらしいものでした。中でも、合唱コンクールは竜真にとつて感慨深いものだったのでしよう。普段は九組で活動している竜真が、二組三十九人の心が一つの中に入ったと感じさせてくれたみなさんに感謝し学校生活を支えてくださり、本当にありがとうございました。

第二十三回 手作り学級新聞コンクール

(東海日日新聞社主催)

銀賞・愛知新聞教育研究協議会賞

福岡小 五組

美川中 六組

銅賞

愛知県児童・生徒料理コンテスト

入選 梅園小 六・七組

岡崎市防火作品コンクール ポスターの部

市長賞 大門小五年 鈴木 優太

今年度の表彰

岡崎市緑化作品コンクール ポスターの部
市議会議長賞 大門小五年 大江 良育
岡崎市読書感想画コンクール
教育委員会賞 大門小五年 鈴木 優太
教育委員会賞 大門小五年 大江 良育
こんなパン食べたいコンクール
佳作 男川小六年 原田 俊弘